

親子で納得 ニュース経済学



経済ジャーナリスト・内田裕子

国の経済力の目安となるGDP

5月下旬、衝撃的なニュースが新聞の1面をかざりました。「GDP、戦後最悪の減少」。GDPは、「国内総生産」といい、一定の期間に国内で生み出された品物やサービスの価値を合計した額。国の経済力を表す数字です。内閣府が発表した1月～3月期の物価の動きをのぞいた実質GDPの成長率は、2008年10月～12月の前期に比べて4.0%減り、このペースが1年間続いた場合の「年率」にすると15.2%減ったのです＝グラフ参照。

こんな悪い数字が出てくるとは思っていなかった。大人たちはびっくりしてしまいました。GDPを見れば、国民が1年間にどのくらい働き、お金を使い、価値を生み出したかが分かります。08年の日本のGDPは496兆6069億円。これは、ア

メリカに次いで世界で2番目の額です。

GDPの成長率は、前の年に比べてどのくらいGDPが増えたり減ったりしたかを表しています。成長率が高いほど、その国の経済に勢いがあるということです。日本は年率でマイナス15.2%ですから、経済活動がさうとう落ちこんでいるということが分かりますね。マイナスの理由は、自動車や電子部品など、日本が競争力をもっている製品が、外国で売れなくなったこと。その影響で企業は工場とかお店など、新しい施設をつくることを先に延ばした。給料やボーナスが減って、うちの家計が厳しいため、みんながお金を使わなくなったこと。いろいろな理由が重なった結果です。

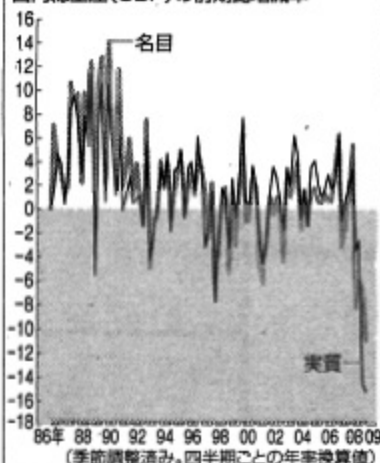
日本は戦後長い間、経済成長を続けてきました。不況も何度かありましたが、それをね返す勢いがありました。バブル経済が崩壊した1990年代は厳しい状況が続きましたが、わずかながらも経済成長は続けてきました。今回の急激なマイナス成

長は、日本が過去に経験したことがないので、みんなが不安な気持ちになっているのです。

でも、経済は常に変化しています。不況の中でも次の経済成長への準備は始まっています。経済活動は人間の生活そのものですから、数字だけでは計ることができません。あくまでもGDPはひとつの経済指標です。

プロフィール 玉川大学芸術学部専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部第一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。ウェブサイトは、<http://www.takarabe-hrj.co.jp/uchida/>

国内総生産(GDP)の前期比増減率



物価の動きをのぞいた実質GDPと、金額をそのまま積み上げた名目GDPの移り変わり。名目GDPは、物価の動きが分かる